期待した未来をつかむために

宮崎東諸県支会代表　　酒井　彩花

「若者は政治に無関心だ」よく耳にする言葉である。だが、今の１０代は学校での模擬選挙や主権者教育を通して、関心はあるけれども、今の政治に期待をしていないだけではないだろうか。正直、今の政治が若者を失望させ、勝手に無関心だと言っているように思える。私は、そんな日本の若者たちに伝えたい。選挙に行っても行かなくても「たかが一票では何も変わらない」と思っているのなら、選挙に行くべきだ。なぜなら、政治が分からなくても、選挙公報を読んでみたり、街頭演説をしているあの人の活動に興味をもったり、この人に託してもいいかもというほん少しの気持ちが、今の日本を変えることができると考えるからだ。そうでないと、今のままでは日本は変わらないどころか落ちていくだけではないだろうか。

いわゆるＺ世代と呼ばれる私たちは、ＳＮＳを通して様々な情報を得て、自由な意見を気軽に交し合っている。私自身、ＳＮＳを通して多様な意見から新たな発見をすることもあり、非常に面白く感じる。中には、物価高騰への政府の対策や増税などへの政府の動きに対する厳しい意見も多々見られる。ネットニュースに取り上げられた政治問題に対して、ＳＮＳ上で自分の意見をぶつけ合っている様子を見ると、やはり若者たちは今の日本へ十分な関心をもっているように思える。ただ、私たちは政府にばかり責任を押し付け、受け身になりすぎたのかもしれない。せっかく自分の主張をもっているのだから、ぜひ政府に届けてほしい。そのためのもっとも簡単な手段が「投票」なのである。「今の政治に不満があるなら自分で政治家になれ」なんて誰もそこまでは求めていない。

私の高校では模擬選挙というものがあった。参議院選挙の実施にあわせ、実際の立候補者や政党に投票をした。このときに、初めて選挙公報というものを手にし、クラスメイトは投票する人を選ぶべく、真剣に選挙公報を読んでいた。友人とも、どんな政策をしているか、この人の所属する政党はどんな公約を掲げているか、など話し合ったりした。私は、当時高校２年生で選挙権をもっておらず、やはり子どもの意見だけではどうにも難しいと感じた。そこで、実際に選挙権をもつ母や姉にどういう基準で投票者を選んでいるのかを聞いてみた。すると、忙しくて選挙公報も読めていないし、誰に投票しても同じだという言葉が返ってきた。このとき、きっと大人も政治に興味関心のある人ばかりではないし、大人にとって選挙はそれほど優先されるものではないのかという驚きが大きかった。

人々が選挙に行かない理由のひとつには、ハードルの高さがあると考える。選挙公報に書いてある公約が明確でなかったり、私たちの身近なものでなかったりして、やっぱり自分には難しいと感じる人も多いだろう。それにそもそも、忙しい大学生や社会人にとっては、びっしりと字で埋め尽くされ、よくわからない選挙公報など、読む気にもなれないというのが本音ではないだろうか。実際に、私が初めて投票に行く際に候補者を念入りに調べた。選挙公報だけではこの人が具体的にどんなことをしてくれるのかが分からず、ネットで調べることにしたのだ。ネットには全候補者の公約がまとまっているものは無い。一人ひとり調べると、ホームページ等に掲載している人もいたが、それはほんの一部で、６１人の候補者のうち４８人はネット上では公約を見ることができなかったのだ。結局私は、一番公約が明確

で、身近に感じた候補者に投票した。だが、本来選挙とは、この人に期待したいという強い気持ちで投票するものなのではないかというイメージとのギャップを感じ、ショックだった。そして、きっとどの世代も「こんな曖昧に選んでいいのか」という気持ちは同じだろうと考えた。「誰を選んでも同じだから」という言葉も、大人たちからよく聞く。これは、誰が当選しても、大して日本の現状は変わっていないからだと思う。正しくは、実際に変わっていないわけではないが、政府の実績は国民には届いていないからなのではないだろうか。

これらのことから、私は立候補者と政治家の方々にお願いしたいことがある。それは、①公約をＳＮＳやネット上でわかりやすくまとめる、②実際の活動の様子をＳＮＳで発信する、③選挙時に掲げた公約の達成度を定期的に報告する、この３つである。日本のために活動する皆さんには、日本の将来のために、若者の政治参加と投票率アップを目指して、ぜひ私たちのために協力してもらいたい。

若者の政治や選挙への興味関心の問題は、もはや若者だけのものではない。誰もボロボロに廃れた母国など見たくないはずである。だから、若者に限らず、垣根を越えたすべての国民の力で、少しずつ日本の未来を明るい方へ導きたい。一票の積み重ねが、確実に日本を変える。